

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒210-0865  
 住 所 川崎市川崎区千鳥町13番2号  
 氏 名 サンケミカル株式会社  
 代表取締役 社長 堀井 敬右 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	サンケミカル株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市川崎区千鳥町13番2号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	ウレタン樹脂, 洗剤, 化粧品等の原料製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	3,340	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	工務課
		所在地	川崎市川崎区千鳥町13番2号
		電話番号	044-276-1820
		FAX番号	044-277-8246
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計 画 期 間	平成28年度 ~ 平成30年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	

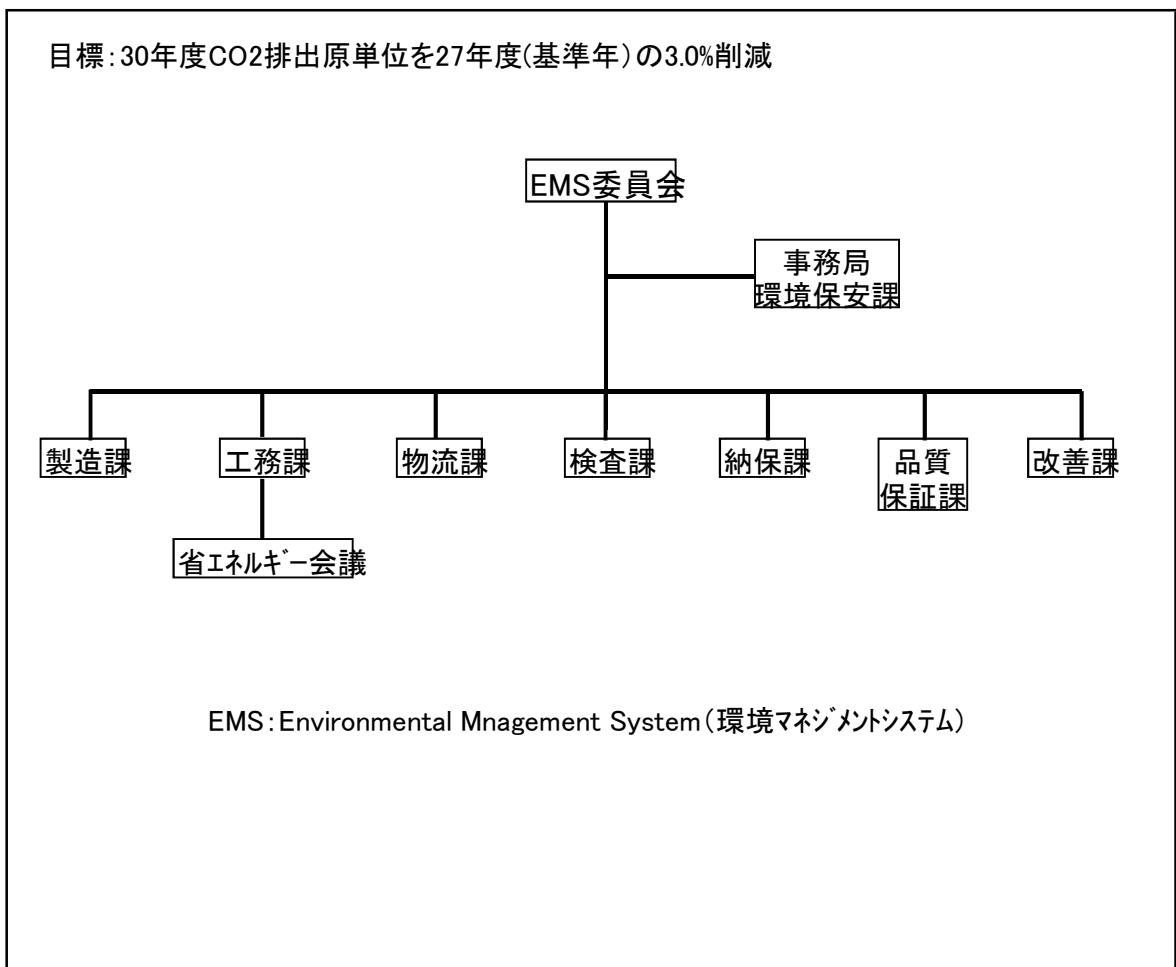
- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

## 事業活動地球温暖化対策計画

### 1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

- (1) 工場長は、当工場の環境方針を定め、これを文書化する。この方針は以下のことを確実なものとする。
- 1) 当工場の活動・製品及びサービスの性質・規模・環境影響に対して適切なものであること。
  - 2) 継続的改善及び汚染の予防に関する事を約束する。
  - 3) 関連する法規制・利害関係者との協定事項及び当工場が認めたその他の要求事項の遵守に関する約束を含める。
  - 4) 環境目的・目標を設定し、見直すための枠組みを与える。
  - 5) 文書化された方針が実行され、維持されるように、すべての従業員及びOS、構内常駐下請業者等に周知させる。周知の方法は、環境方針を各部署・会議室・食堂等に掲示するとともに、教育を実施する。
  - 6) 方針は一般に公開できるようにする。
- (2) 方針の見直し  
工場長は、次のような変化する状況及び情報を反映して定期的に見直し改定を行なう。
- 1) 法規制、その他の要求事項に変更があった場合。
  - 2) 内部監査の結果及び／または経営層による見直しの結果。
  - 3) その他工場長が必要と判断した場合。

### 2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等 (第1号、第2号、第4号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

ア 基準排出量と目標排出量

基準年度	27	年度	目標年度	30	年度
基準排出量	(実) 6,353 (調) 6,353	t-CO <sub>2</sub>	目標排出量	(実) 6,162	t-CO <sub>2</sub>
削減率	(実) 3.0	%	削減量	(実) 191	t-CO <sub>2</sub>

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原単位の活動量	生産量	単 位	t-CO <sub>2</sub> /t
基準年度の値	0.07701	目標年度の値	0.07470
削減率	3.0	%	
延床面積、生産数量以外の原単位を使用した場合の理由			

ウ 目標設定に関する考え方

生産数量当たりの温室効果ガス排出量原単位を年間1%改善を目標とし目標排出量を算定した。  
 今後の稼働率は基準年度(平成27年度)の稼働率と同じで推移すると予想されるので、目標排出量は基準年度排出量の3.0%を削減した6,162 t-CO<sub>2</sub>と算定した。

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標 (全社目標)

基準年度27年度から1%/年の削減とし6,162 t-CO<sub>2</sub>/tとした。

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

<p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)</p>	<p>エネルギー負荷の低減、高効率機器の導入、排蒸気の有効活用等の省エネルギー活動を通じて温室効果ガスの排出量削減を行なう。</p> <p>(1) EMS委員会 EMS委員会を通じて温暖化ガス排出削減に取り組んでおり、各部署毎の活動・進捗状況をフォローし推進します。</p> <p>(2) 設備の保安全管理 保温の破損等の設備保全を確実にいき、無駄なエネルギー消費を抑制する。</p> <p>(3) エネルギー管理 工場全体や主要設備単位でのエネルギー使用量をチェックし、無駄なエネルギー消費が発生したら直ぐ対応する。</p> <p>(4) 老朽化機器更新時の高効率機器採用 ①真空ポンプ ②冷凍機 ③照明等 購入時に高効率機器を採用</p> <p>(5) 最先端の省エネ技術の採用 ①窓ガラスに遮熱フィルムの貼り付け ②屋根に遮熱塗料の塗布</p> <p>(6) 運転条件の見直し ①攪拌回転数の低下 ②冷凍機・冷却塔設定温度アップ</p> <p>(7) 排熱の利用 反応熱を利用し低圧スチームを作成し利用</p> <p>(8) 保温の強化 保温を強化し放熱をなくす。</p>
<p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 3 号該当者等)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

小規模であっても設置可能な再生可能エネルギー源の導入を検討する。

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

次のような対策を実施した。

- (1) 高効率冷凍機の採用
- (2) 消費動力の少ない真空ポンプの採用
- (3) 蛍光灯をLED照明に更新
- (4) 高効率空調機への更新
- (5) 反応熱で低圧スチームを発生させ蒸箱と濃縮装置に利用
- (6) 反応条件の見直し(攪拌回転数の低下)
- (7) スチームトラップの省エネタイプへの更新

6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

なし

7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

次の事を通じて地球温暖化対策の推進を実施します。

- (1) 用水使用量の削減
- (2) 廃棄物削減
- (3) 環境教育
- (4) 法令順守

様式第 1 号

(第 7 面)

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	6,353	t-CO <sub>2</sub>
(調)	6,353	

イ 第 3 号該当者等

(実)		t-CO <sub>2</sub>
(調)		

(2) 事業所等単位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k1 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
サケミル株川崎工場	川崎市川崎区千鳥町13番2号	1632	脂肪族系中間物製造業 (脂肪族系溶剤を含む)	6,353 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k1 以上 1,500k1 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k1 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500k1 未満	
300~400k1 未満	
200~300k1 未満	
100~200k1 未満	
100k1 未満	

(3) 事業所等単位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 以上 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 未満 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の数

事業所数	
------	--